

3面	市営住宅の入居者を募集
4面	6月は環境月間 環境フェアを開催
5面	市立船橋高校を紹介 市船出身 体操・谷川翔選手 NHK杯優勝
6~11面	情報ひろば
12面	ジェット チャンピオンシップで準優勝



発行/船橋市 編集/市長公室広報課
〒273-8501 船橋市湊町2-10-25
☎047-436-2111(代) FAX 047-436-2769

ホームページ www.city.funabashi.lg.jp/
携帯サイト www.city.funabashi.lg.jp/mobile/
フェイスブック www.facebook.com/funabashi.kouhouka

市のデータ
人口 638,316人(1,580人増) 世帯 289,610(1,513増)
男 317,866人 面積 85.62km²
女 320,450人 (令和元年5月1日現在)※増減は前月比

「行革」で変わる 船橋の未来

少子高齢化

社会保障経費の増大

公共施設の老朽化



「行革」ってなに？

行革(行財政改革)は、今後必要とされる市民サービスの維持・向上を図るため、これまでの行政運営のあり方を見直していくことです。詳しくは2面でお知らせします。

2年間の集中取組期間

令和元年・2年度の2年間を行革の「集中取組期間」とし、行政運営の効率化・財政の健全化に向けた取り組みメニューを集中的に実施します。



行財政改革で安定した市民サービスへ

問 行政経営課 ☎ 436・2462

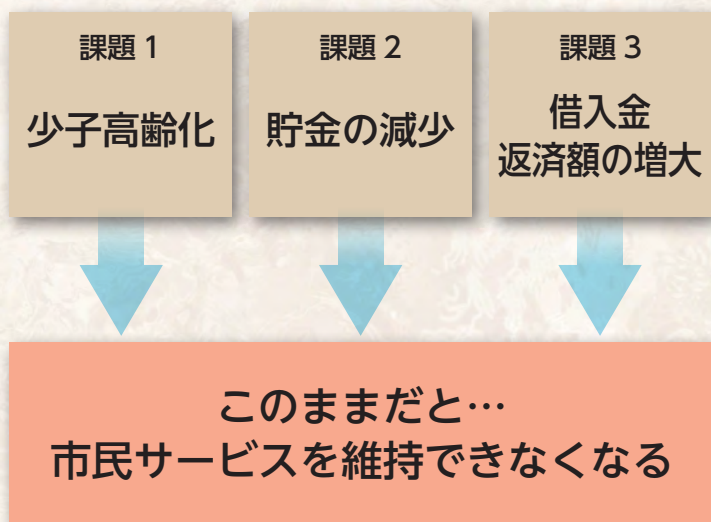
なぜ「行革」が必要なの？

市でも少子高齢化がますます加速し、社会保障経費は増加し続けています。また、学校の耐震化や清掃工場の建て替え等に短期間で積極的に取り組んだことから、その際の借入金の返済額が今後大きく増加します。

そのため、このままの状況では市民サービスを維持していくために必要な財源は、確実に不足することが予測されます。

そこで将来にわたって安定した行財政運営を行っていくため、事業の見直し、積極的な歳入確保など、徹底した行革に取り組み必要があります。

船橋市の今後の課題



「行財政改革推進プラン」を策定しました 6つの柱で行革に取り組みます



行政運営の効率化



財政の健全化

安定的・持続可能・質の高い市民サービスの実現

同プランの詳細や行革の最新情報は市ホームページでお知らせします。

このコードからも見られます▶



「広報ふなばし」7月1日号から、毎月1日号に行革の取り組みを紹介する連載を掲載していきます。

市民と一緒に進める「行革」

行革を進めるためには、行政だけで話を進めるのではなく、市民の皆さんとともに考えていく必要があります。

今後、シンポジウムやワークショップを開催し、随時市の考えや取り組みをお知らせしていくとともに、パブリックコメントやウェブアンケートを実施し、皆さんからの意見を募集していきます。

◆シンポジウムの開催やパブリックコメントの募集等は夏ごろを予定しています。

未来の船橋市のための改革



船橋市長 松戸 徹

今後、市を取り巻く社会情勢が大きく変化していく中、社会保障経費や市の借金の返済にあたる公債費が増加する一方で、貯金が減少し、財政状況は非常に厳しい状況となりつつあります。幸いにも、本市の人口は未だ増加傾向にあり、安定した市税収入が見込めますが、これからも必要な市民サービスを維持・向上させていくためには、財政状況がさらに悪化する前から行革に取り組むことが必要です。

では、まずは、徹底した無駄の排除に加え、総人件費の抑制に取り組みなど、自ら身を切る改革を推し進めてまいります。併せて、市民の皆さまに一定の負担をお願いすることも生じます。しかし、この改革なくして、未来の船橋市を描くことはできません。そのため、令和元年・2年度の2年間を集中取組期間とし、「行政運営の効率化」「財政の健全化」に取り組みます。また、集中取組期間後についても、3年度からの総合計画と連動させ、引き続き行革を実施し、施策をより効果的・効率的に実施できるよう図ってまいります。

市民の皆さまには行革へのご理解、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

